
SCP (Student Clinician Program) に参加して

SCP に参加して

歯科総合診療部 魚島勝美

SCP [Student Clinician Program] は、歯学部の学生による研究活動の促進を目的として、日本歯科医師会主催、(株)デンツプライ後援によって開催されるもので、アメリカでは古い歴史をもつプログラムです。日本では、昨年第9回のSCPが開催されました。全国歯科大学から毎年1名の代表者が東京に集い、日頃の研究活動の成果を発表します。このところ、各大学からの参加率が高まり、ここ数年20校前後からの参加があるようです。発表は審査員を前にしたテーブルクリニック形式で行われ、使用言語は英語です。審査の結果優勝すると、その年のアメリカ歯科医学会 (ADA) 年次総会に合わせて開催されるSCP 世界大会で発表する機会が与えられます。

私が新潟大学にお世話になって2年数ヶ月経ちますが、新潟への赴任以来2年間にわたって、SCPの大学ごとの世話係であるファカルティアドバイザーを仰せつかっております。一昨年には、熊谷君達が合着用のセメント層が硬化後の余剰セメント除去によってどのくらい失われるかを研究し、発表してくれました。昨年8月の大会では、嚥下機能に関する発表で、中村君達が見事3位に入賞致しました。参加者諸君の感想などは後掲いたしますが、他大学での経験を含めて4回ほどファカルティアドバイザーをさせて頂いた結果、少なくとも私は、このプログラムは学生にとって非常に貴重な経験をさせてくれるものであると考えております。もちろん、最初から英語が堪能な学生は残念ながら非常に少なく、また研究活動に参加した経験も発表した経験も無い学生がほとんどですから、SCP参加に対する躊躇が無いとは言えません。しかしながら、参加した後は、皆はつらつとした目をしていましたし、こういった

経験が後々に悪い影響を及ぼすことはまずない、いや、必ずや「あの時頑張って参加して良かった」と思えるものと私は確信しております。

今後も、新潟大学歯学部としてSCPに参加したいと思っておりますので、ご指導頂く教員の先生方を含め、皆様のご協力とご理解をお願いいたします。

2002年第8回の SCP 日本代表選抜大会に 出場して

歯学部6年 熊谷直大

2002年第8回のSCP日本代表選抜大会に同学年の有井丈朗君と、2002年に卒業した衣斐美歩さんと一緒に出場しました。SCP参加にあたっては、補綴科の魚島先生、橋本先生に直接指導を頂きました。大会は8月末に東京で行われ、準備を始めたのは、抄録提出期限まで間もないゴールデンウィーク直後でしたので、3ヶ月の短期間で大会に臨みました。発表内容は、スーパーボンドを使ってクラウンを合着する際、スーパーボンドは硬化時に餅状となるため、余剰セメント除去時にマージン部でセメント層が餅のように引っ張られて引き抜かれないか、ということを実験と歯質およびスーパーボンドを用いて実験し、検証したものでした。もちろん先生方のサポートを受けながらの研究でしたが、最初の実験系の組み立てからほとんど自分達のアイディアで行っていったので、時にはぶつかり合いながら、試行錯誤のなかなかハードな毎日でした。昼間は講義、診療があるので実験は夜に集まって行いました。今考えると実験系の組み立てから予備実験にいくまでが一番のハードルでしたが、その後も発表まで休まず次々とハードルを越えていかなくはならなかったもので、夏休みも返上して熱く濃い3ヶ月間であったと思います。最終的には、3人いたから発表

まで漕ぎ着けることができました。僕は、優勝・アメリカ招待を目指して発表に臨んだのですが、大会当日は他大学の優秀な発表の前に惜しくも敗れてしまいました。全国の歯科大学にこんなに頑張っている人たちがたくさんいるのか、というのが僕の感想でした。そのとき、医科歯科大や日大、鶴見大では、出場希望者が多く、SCP 出場者を決めるための学内選抜を行っているということを知りました。3ヶ月間は大分苦労しましたが、そのときに得た知識や技術が、これから臨床で随分役立つと感じています。特にその時に勉強した接着材料に関する知識や、実験過程で試行錯誤しながら、ワックスや石膏、埋没材、金属を繰り返し扱ったことが僕たちにとってとても良かったと思います。こうすると上手くいくとか、上手くいかないということを実験過程の中で学ぶことができました。

2003年には、中村君たちのグループがついに新潟大学で初めて3位入賞を成し遂げました。2004年以降も意欲のある人がこれにどんどん続くと思います。歯科の世界は広いということを僕はSCPに出で学びました。色々な人があちこちで刺激を受けて帰ってきて、それを大学での生活に生かせれば本当に良いと思います。

昨年は、SCADA（世界中のSCP大会出場者の同窓会）のメンバーとして、2002年と2003年にSCPに出場した5人でSCPのアメリカ本大会の見学にも行ってきました。アメリカや他の国の歯科学生たちの発表をみて、日本のSCP大会の発表でアメリカに呼ばれなかった発表も全然負けていないと思いました。新潟大学歯学部がSCP日本大会で優勝してアメリカ大会で発表を行うことも、近い将来実現するのではないかと思います。

〈SCPに関するHPのURL〉
スチューデント・クリニシャンクラブ（S2C）
HP：
<http://homepage3.nifty.com/scc-niigata/index.htm>

2003年第9回の SCP 日本代表選抜大会に出場して

歯学部6年 中村公彦

5年生には教室配属があり、摂食・嚥下障害学分野（旧加齢歯科）で嚥下に関する実験を行っていました。その際に野村教授からSCPに参加しないかとお声掛けがあって、4ヶ月間の研究生生活が始まりました。毎日、夜遅くまで測定やデータ整理を行い、肉体的にはつらかったのですが友人たちと一緒にとても充実した日々をすごしました。結果は全国第三位となり、とても感激しました。また、この大会の関連でアメリカの学会に参加し、他大学の人たちや様々な歯科界の方々と知り合い、すばらしい経験ができ、自分の視野が広がりました。

歯学部6年 長澤麻沙子

私の参加理由は単に偶然の重なりで、時間と時期、自分の気持ちが一致したためでした。参加して良かった点は、歯学の世界には学生、先生問わずこんな人間がいるんだ、と知ったことです。SCPが自分に何を残したかはまだわかりませんが、何かのきっかけ、要素になったことは確かです。また、チャンスはどこにでも転がっていて、それをつかむのは自分の能力だという、当たり前な事を改めて感じた良い経験となりました。ありがとうございました。



歯学部6年 齋藤和幸

実験の仕方やデータの整理など、研究の一連の流れを体験できたことはとても有意義でした。実験の厳密さや得られたデータの解釈の仕方などを考えるのは非常に面白かったです。このような機会を与えてくださった野村教授、豊里先生、加齢歯科の諸先生、魚島教授、山田学部長、また、同級生、先輩、後輩あわせて50名の被験者に感謝いたします。また、2003年11月8日の新潟歯学会にて同内容を発表できたのも貴重な体験でした。

